

## 国史跡 屋形遺跡で発掘調査を体験しよう

8月5日 [唐丹町大石]

本年3月に国史跡に指定された屋形遺跡で、唐丹小3・4年生の児童13人を対象に発掘調査体験会が行われました。児童がスコップを使って体験を開始すると、次々に土器や石器などのかけらが発掘され大きな歓声が上がりました。土器には、はっきりと縄目模様が確認でき、約2,000年～4,800年前の土器であると職員から説明を受けました。

屋形遺跡からは住居跡や貝塚なども発見されています。釣り針の他、ウニやアワビ、シュウリ貝の貝殻も発掘されていることから、数千年前から「魚のまち」として、唐丹町の人が漁業をなりわいにしていたことが再確認されました。

市は引き続き、現地見学会や体験学習などができる体制を整え、総合的な学びの場として活用を図っていきます。



土器の他に狩りに使う矢じりのかけらも発掘されました

児童は昔の人の生活の様子を知り、改めて地元のなりわいに誇りを持ちました

## こどもエコクラブ 「海辺の磯遊び！」

8月7日 [平田漁港周辺]

自然体験をしながら、子どもたちに環境への理解を深めてもらうため「こどもエコクラブ」が海辺の生き物観察を行いました。

子どもたちは潮だまりで生き物を探し、現れたヤドカリやフナムシなど普段見慣れない生き物に大興奮。

後半はペットボトルトラップを工作し、杉の浜でカニとりを行いました。力二の居そうなポイントを見定めて仕掛けを設置すると、他にフグなどの珍しいゲストも登場。可愛らしい動きに目を細めました。



狙いを定めてトラップを仕掛けます



※ペットボトルトラップを使った生き物の採捕にあたり、県の特別採捕許可を得ています



物故者納骨堂にはいまだに身元の判明しない9柱の遺骨が安置されています

## 東日本大震災犠牲者供養

8月9日 [金石祈りのパーク] [大平墓地公園 物故者納骨堂]

例年行っている震災犠牲者の供養を、新型コロナウイルス感染症予防のため関係者のみ参列し執り行いました。金石祈りのパークでの献花、物故者納骨堂で焼香し、犠牲者の安息と、一日も早い身元の判明を祈りました。

物故者納骨堂で読経を行った日蓮宗仙寿院の芝崎惠應住職は「生きている人々が安心安全なまちづくりをすることが被害者の安堵につながる。亡くなった方が、家族が災害に巻き込まれる心配をする必要がなくなったとき、仏教で言うところの成仏をされたと言えるのでは」と話しました。

## 令和3年度金石市戦没者追悼式

8月9日 [市民ホールTETTO]

昭和20年7月14日と8月9日、金石は艦砲射撃を受け、多くの人命・財産を失いました。市は例年8月9日、戦争で犠牲になった方々への追悼式を開催していましたが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

2年ぶりの開催となる本年は、市内の遺族と式典関係者のみが参列し、式が執り行われました。

遺族を代表し西村征勝さんが「現在が享受している豊かさは尊い犠牲のもとに築かれたものであることを忘れてはならない。戦争を二度と繰り返さない決意を次の世代に伝えていくことが私たちの使命」と追悼の言葉をのべ、参列者は犠牲者の鎮魂と恒久平和を祈りました。



西村さんは、戦後76年を迎え、戦争経験を風化させてはならないと話しました



戦没者ご冥福を祈り、静かに手を合わせました

## 艦砲射撃犠牲者の情報提供をお願いします

市は、これまでの調査で781人の艦砲戦災犠牲者名簿を作成していますが、いまだ犠牲者が審査するための情報が全くない方も191人いらっしゃいます。この方々の情報をお持ちの人は、ぜひお知らせください。詳しくは市のホームページをご覧いただき、お問い合わせください。

情報提供・問い合わせ 市地域福祉課 地域福祉係 ☎22-0177



## 定置網見学&寿司作り体験ツアー

7月3日 [魚河岸テラス]

釜石の豊かな海を体感し、水産資源の生産について理解してもらうため、岩手大学釜石キャンパス学生主催の体験ツアーが行われました。参加者は早朝、桑ノ浜漁港を出港し、東部定置漁業生産組合の定置網引き揚げを見学。ブリやヒラメなど、魚が揚がるたびに歓声が起きました。

午後は、山田町で寿司店を営む横田博安さんを講師に寿司づくり体験をしました。魚のさばき方やシャリの握り方など、本格的な寿司づくりを学びました。自分で握った寿司は味も格別。参加者は海のもたらす恵みを実感しました。



どんな魚が見られるか興味津々



握りは食べたときにほどけるような力加減がポイントです

## 子ども復興五輪

7月10日 [釜石鵜住居復興スタジアム]

子どもたちに復興や地域の魅力への理解を深めてもらうため、岩手、宮城、福島の3県で開催され、釜石シーウェイブスジュニアから11人、宮古ラグビースクールから9人の小学生が参加しました。午前中は、釜石シーウェイブスの選手らから技術指導が行われた後、交流試合が行われ、子どもたちは、ラグビーワールドカップ2019™が開催された会場の芝生の感触を踏みしめながらプレーしました。午後の復興学習では、いのちをつなぐ未来館の川崎杏樹さんが、震災の体験や日頃の準備の大切さなどを語り、子どもたちは真剣に耳を傾けました。



雨にも負けず、試合に全力を注ぐ選手



鉄鉱石のざっしりとした感触に大満足

## 夏休み特別企画 鉱山の宝探し

7月31日 [旧釜石鉱山事務所]

実際に鉱石に触れながら、釜石の歴史や製鉄業の成り立ちについて理解を深めるイベントが開催されました。参加者は釜石の地質や石についての講義を受けた後に屋外へ。色とりどりの鉱石の中からお気に入りを集め、磁石がつくか試したり、割ってみたりと思い思いに楽しみました。

後半は、図鑑で鉱石の名前を調べながら標本づくりに挑戦。集めた宝物を箱に納め、それぞれが工夫を凝らした装飾を施すと、自分だけの鉱石標本が完成しました。



特設コースを周回し、ゴールを目指します

## 第5回釜石オープンウォータースイミング (OWS) 2021

8月1日 [根浜海岸]

OWSは、2016年の希望郷いわて国体で初めて正式種目に採用され、2017年から競技の普及、地域振興のために毎年開催されている大会（昨年は新型コロナウイルスの影響で中止）です。競技は500メートル、1キロ、3キロ、5キロに分かれて行われ、2年ぶりに開催された本年は、市内外の小学生から70代までの過去最多の234人が参加しました。選手は、スタートの合図で砂浜から勢いよく海へ飛び出し、日頃の練習の成果を発揮しました。



広報かまいし 2021.9.15